ROUTE 7

「 これからの教師の役割 」

教師が**ファシリテーター**となり、それぞれの子どもたちの**学びをつないで創る**授業を展開する。

これからの教師の役割って何？

求められる、これからの教師の姿

全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現のために、教職員には次の3点が求められています。

- ◻ 教師が技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く　環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を**学び続ける**こと。
- ◻ 子ども一人一人の**学びを最大限に引き出す**教師としての役割を果たしていること
- ◻ 子どもの主体的な**学びを支援する伴走者**としての能力も備えていること。

「個別最適な学び」を創る主体は子ども！

「個別最適な学び」を創る**主体は「子ども」**です。子ども一人一人の目線で授業が展開されるよう、子どもの声をつなぎ、教師は授業を創っていきます。
そのためには一方的な知識を注入する授業ではなく、子どもの学びを教師自身がファシリテートし、**子どもの声をつないで創る授業展開**が求められます。

何から始めればいいの？

まずは、子どもの学び方の得意を見いだす

「個に応じた指導」のためには、**一人一人の子どもがどのように学ぶことが最適なのかを見いだすこと**が望まれます。その子の得意が活かせる学習カリキュラムを考えてみましょう。デジタルネイティブ（子どものころからパソコンなどのデジタル機器やインターネットがある環境の中で育ってきた世代）の子どもたちには、これまでのような「ノートに写す」「ノートにまとめる」だけではなく、別の方法が学びを獲得しやすいこともあります。

教育課程の２割だけ変えてみる

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を**一体的に充実させるために教育課程を見直し**、授業や単元や題材などの学習のまとまりの中でどれだけ反映させることで**主体的、対話的で深い学びにつなげることができるか見通しを持って授業を創る**ことも必要です。
研究指定校では、教育課程の２割だけ変えて実施することで、子どもの学びが変わったとしています。

どのように子どもと向き合うの？

“はげましとフォロー”
子どもたちに寄り添う存在として

＊子どもに学びの自覚を促す“問い返し”
自分が気がついたことや分かったことに対して、省察できるようにすること。
そのために子どもに常に問い返し、学びを自覚できるようにしていくことも大切です。

＊どうファシリテートするか、いかに伴走するか
個別最適な学びの場面と協働的な学びの場面をどうつなげるのか、学習活動全体を見渡せること。**子どもの側**で、**子どもの視座に立ち**、**学びの伴走者**として自覚を促すのか、見通しを持てることも必要です。

だから、私たちは学び続ける！

私たちは、求められる知識・技能が変わっていくことを意識して、継続的に新しい知識・技能を学び続けていくことが必要です。子ども一人一人の学びを最大限に引き出す質の高い指導が可能となることに加え、教師自身も**一層やりがいを感じ、教職生涯がより充実したものにしていく**ことです。**「先生」が魅力ある職業であることを子どもたちに魅せていく**ことも大切です。

もっと詳しく！
これからの教師の姿
ー 文部科学省答申
ー 「みなさんからの10の質問にお答えします！」文部科学省HP

天童中部小学校から学ぶ
ー山形県天童市立天童中部小学校HP

個別最適な学びとの関連
最終的には先生がいないところで子供同士で学び合い高め合うことを目指します。その姿を目指して、子供たちに関わること場面等を考えてみましょう。子供と関わる中で「この子の奥底にはまだ何かありそうだな」と思う部分に働きかけていくことが大切です。